

JALと慶應義塾大学が高知空港にて、 12月8日に地震津波防災演習を実施しました

JALは、慶應義塾大学と連携協定を締結していますが(*)、その一環として、2022年12月8日に、高知空港にて地震津波防災演習を実施しました。

(*)慶應義塾と日本航空は、2018年9月20日に、人財育成と社会課題の解決を目指し、連携協定を締結

本演習は、南海トラフ巨大地震の発生により、高知空港周辺にて震度7の揺れを観測、加えて大津波警報が発令された場合を想定し、JAL社員が自らの命を守ることを大前提としながら地震発生時の初動対応やターミナルビル屋上への避難誘導などを通じて、防災意識の向上、および、地震・津波発生時の対応に関して共通認識を持って「いのちを守る」行動の実践を目的としています。演習内容としては、高知空港ターミナル内での避難訓練に加えて、ターミナル内の有料待合室を航空機機内に見立てて、機内からの避難訓練も実施しました。

演習実施にあたり、地震学・災害情報・防災教育などを専門とする慶應義塾大学環境情報学部の大木聖子(おおき さとこ)准教授監修のもと、実際の地震・津波による被害を想定したシナリオを作成しました。本演習には、JAL高知空港所スタッフやJAL運航乗務員・客室乗務員の計約20名と、お客さま役として大木ゼミの学生約40名が参加。JALスタッフには事前にシナリオ内容が知らせることなく、また、お客さまの連れのご家族や外国籍の方、怪我人などさまざまなお客さま役を高知空港ターミナル内の至る所に配置して実施することで、実践的な演習内容となりました。

本演習は映像と音声でも記録しており、後日、この記録を慶應義塾大学の知見で学術的に分析することで、より効果的、効率的な防災計画を作成し、今後の訓練にも活かしてまいります。また、高知空港での演習の結果を、被害が想定される他空港へ展開することで、空港の地震・津波災害への対応力を高めてまいります。

JALは、今後もお客さまに安全・安心に空港をご利用いただくための環境作りを進めてまいります。

【概要】

実施日 : 2022年12月8日(木)

場所 : 高知空港旅客ターミナル内

演習内容 : ①空港内での避難訓練 ②航空機機内からの避難訓練 ※空港内有料待合室を機内に見立てて実施

演習参加者 : ・JAL高知空港所スタッフやJAL運航乗務員・客室乗務員の計約20名

・お客さま役として大木ゼミの学生約40名



空港での避難誘導の様子



空港内有料待合室を機内に見立てた訓練の様子



演習後の大木准教授からの講評